

## □概要

欧州航空機メーカー(Airbus)の機体製造で排出される炭素繊維端材をマット化したリサイクル炭素繊維(rCF)を用い、航空機用シート骨格部品へ再利用させるリサイクルシステムを確立する。

連携体：金沢工業大学



## □内容

## 従来技術(現状)

## リサイクル炭素繊維(rCF)の最適成形技術

現状のrCFは厚く(3mm)、ランダム散布積層不可 → 用途が無い



<ランダム積層技術>  
旧サポイン事業で確立

シート重量 7~10kg/席  
(アルミ材使用)

## 研究開発後の技術(目指す姿)

①ランダム散布積層 + ②ロボットによる最適配向積層  
※材料供給:独Fraunhofer研究所



①ランダム積層



②最適配向技術



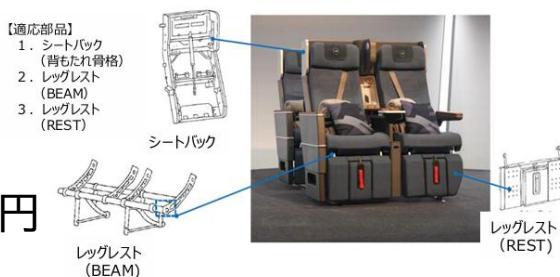
航空機シート

シート重量 2kg/席  
(rCF使用)

軽量化:約1/3~1/5実現

## □期待される成果または展望

- 製品：航空機用シート部品用材料
- 販売先：航空機用シート製造メーカー
- 価格：3,400円/枚(加工費のみ)
- 数量・売上額：36,000枚・1億2千万円
- 販売開始：2030年頃



・本技術を自動車等のモビリティ用途、スポーツ用途等への横展開で事業性を高める  
・北陸地域や国内自動車部品加工事業者(プレス形企業、CFRP関連企業)の受注増を見込む